

ひりょう 肥料の話・土作り【3年生】

桐朋学園小学校・生活科

3年生のみなさんは、桐朋学園小学校に入学してから、どのような植物(しょくぶつ)をそだててきましたか。1年生では「あさがお」「トウモロコシ」、2年生では「ひまわり」、そして教室の前にある花だんには、チューリップなどのきれいなお花もたくさん植えたと思います。

さて、いろいろな植物・作物がありますが、それらが元気にそだつために大切なものは何なのか分かりますか。毎年、3年生の生活科はこの学習からスタートし、そして、その大切なものの一つを、実さいに作る体けんをし、その後の生活科・理科の学習につなげていきます。

しかし、今年度は3月から引きつづき休校となっているので、みなさんはこの学習ができていないのですが、植物・作物には、うえる・そだてるための「時季(じき)」があり、みなさんが学校に来られるようになった後、すぐに学習ができるよう、今は休校中ですが、少しずつうごきはじめています。

そこで、休校中に生活科で行ったことを、『生活科だより』というおたよりの形で、かんたんにしょうかいしていきたいと思います。ぜひ、みなさんに読んでもらい、少しでも学んでもらえるとうれしいです。

1. 植物・作物が育つためにひつようなものは…?

「水」… みなさんの体は、たくさんの水分でできています。じつは、植物も同じなのです。



「日光」… 植物は、お日さまの光をあびて、取り入れた空気とともに、えいよう分を作るのです。

「空気」… 植物もみなさんと同じように、つねにいきをして、ひつようなものを取り入れています。

「^{おんど}温度」… さむすぎても、あつすぎても植物にはよくありません。わたしたち人間も同じですよ。

そして、もう一つ、なくてはならない大切なもの…、それは「土」なのです。



植物は、土から「水」「空気」「熱(ねつ)」、そして「えいよう分」などをもらい、大きくなっていきます。土が植物にとって、なくてはならないもの、ということが分かりますね。

2. さて、「^よ良い土」とは…?

このように、植物・作物にとってなくてはならない土ですが、どんな土が「良い土」といえるのでしょうか？
まとめてみると、下のようになります。

- ふかふかでやわらかい … ・水はけがよく、根が水分を吸収(きゅうしゅう)しやすい
- たっぴりのえいよう分がある … ・空気がたくさんまじっていて、土の中を根がはりやすい
- たっぴりのえいよう分がある … ・根が土からたくさんのえいようを吸収する

→ このような土のことを『肥えた土』ともいいます。

3年生はまい年、この「肥えた土」を作る体けんを行います。生活科では、『土作り』とよび、この土作りでえいようたっぷりとなった畑(はたけ)に、それぞれの学年がいろいろなものを植えて、そだてていくのです。

3. えいようたっぷりの『肥えた土』を作るには…

肥えた土を作るためには、みなさんがまい日、おいしく、えいようのあるごはんをきちんと食べるように、土にもえいようのもとになる「肥料（ひりょう）」が大切なのです。

では、桐朋学園小学校では、どのような肥料を土にあたえて、『土作り』を行っているのでしょうか。ここでは、まい年つかっている5つの肥料をしょうかいします。

本来だったら、みんなにさわってもらったり、においをかいでもらったりして、体ぜんぶをつかって、肥料について学んでほしいのですが、ざんねんながら、今年度はそうはできないで、せめて、しゃしんを見ながら文を読むことで、それぞれの肥料のイメージをもってもらえたら、と思います。

・ふよう土

「ふよう土」は、かれ葉などをくさらせて作った土のことです。なので、よく見てみると、葉っぱのようなものがまじっていることに気づきます。じつは、『桐の庭（きりのにわ）』でも「ふよう土」を作っていますよ。



・たいひ

「たいひ」は、土と肥料のとくちょうを合わせもったようなものです。おち葉・ワラなどに米ぬかやおがくすなどをまぜて、くさらせて作ったものです。このほかにも、いろいろな作り方があります。



・牛ふん

「牛ふん」は、牛のふんにワラやおがくすをまぜて、くさらせて作ったものです。「ふん」なので、においがきつそうと思うかもしれませんが、ほとんどにおいが気になりません。ききめが長くつづく肥料です。



・けいふん

「けいふん」は、ニワトリのふんをかんそうさせて作ったものです。けいふんは、牛ふんよりも早くききめがあらわれますが、ききめが切れてしまうのも早く、牛ふんと合わせてつかうことがポイントです。



・あぶらかす

「あぶらかす」は、ダイズ・アブラナなどの植物からあぶらをしぼったときののこったカスからできた肥料です。「江戸時代（えどじだい）」という古いむかしから、肥料としてつかわれてきたそうです。



ここまでが『肥料の話』についてでした。つぎは、いよいよ『土作り』です。どんなふうに土作りを行ったのか、つぎのページでしょうかいします。

3. いよいよ「土作り」です

① 苦土石灰をまき、たがやす

4月14日(火)、『土作り①』として、畑に「苦土石灰」をまき、こううんきで土をよくたがやしました。

「苦土石灰」については、くわしくせつ明すると、とてもむすかしいので、ここでは はぶきますが、ひとこと言うならば、植物・作物がそだちやすい土に生まれかわらせるためのものです。

そして、先ほども書いたように、ふかふかでやわらかく、空気がたっぷりに入った土が「良い土」なので、なんどもたがやすことが大切です。畑は広いので、土をたがやしてくれる「こううんき」が大かつやくします。

この『土作り①』は、まい年、生活科の先生がひと足早く行い、しばらく畑をねかせて、『土作り②』をむかえます。



② 5つの肥料をまき、まぜ合わせる

4月21日(火)、『土作り②』を行いました。これこそが、3年生が行う「土作り」のメインであり、先ほどもしょうかいした5つの肥料を畑にまき、土をよくかきまぜることで、肥料が畑によく行きわたります。

まい年、3年生は「はだし」になり、土のかんじよくを「はだ」でかんじながら、体けんをするんですよ。

今年度は、3年生の先生と生活科で行いました。今後、この土をつかい、いろいろな作物をそだてていきます。



まずは石ひろい。広い畑をさがすのは大へんです。



その後、5つの肥料をまんべんなくまきます。



こううんきをかけて、よくたがやしていきます。



今年もいい土(肥えた土)ができたようです。